



この町で素敵な「^{ミライ}未来」を描く方をご紹介します。

障がいのある人もない人も、
笑顔で暮らせる町をつくりたい！

相談支援事業所こぶし 相談支援専門員

荒木 あらか 芳美 よしみ さん (鮎貝在住)



今回ご紹介するのは、社会福祉法人白鷹こぶし会相談支援事業所こぶしで、相談支援専門員として勤務している荒木さんです。

荒木さんは、元々介護の仕事に携わっていましたが、知人の紹介で4年前から現在の職業に従事しています。相談支援専門員とは、障がいのある方の相談に乗り、福祉や医療、居住といった幅広いサービス事業所と調整を図りながら利用者の生活環境を支える仕事です。「現在は、町外の方も含めて60名程度の方の支援を行っています。生活に関するニーズというものは、誰にでも気軽に話せるものではないので、まずは利用者さんと良い関係を築くことを大切にしています」と語る荒木さん。

「障がい」は、生まれつきのもので、ただではなく、事故などが原因で、ある日突然自分の身にも降りかかる可能性があるものです。そういった後天的に障がいを抱えてしまった方のケアというものは、非常に難しいといえます。「後天性の障がいは、まず自分自身がその現実を受け入れることが難しいものです。本人だけではなく、そ

良い関係を築くために、
いつも笑顔で明るく！



のご家族も理解するまでに時間を要します。誰かに支援されることを『特別扱い』だと感じ、負い目を感じてしまう方もいます。『障がい』は、誰の身にも起こりうるものだからこそ、当事者だけでなく地域全体で理解を進めて、支え合って行かなければならないと思うんです。しかし、現実としてまだまだ理解が進んでいないという課題があります。町がすすめている『障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり』を実現するために、障がいのある方を支援する者として、情報発信など私ができることを精一杯取り組んでいきたいです」と誰もが笑顔で安心して暮らせるまちづくりへの思いを語ってくれました。